

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	香川県
-------	-----

・学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	琴南町立琴南中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数 14
学級数	1	1	1	0	3	
生徒数	36	31	28	0	95	

・研究の概要

1. 研究主題

選択教科における補充的な学習の教材開発

2. 研究内容と方法

(1)実施学年・教科

3年生 国語・社会・数学・理科・英語の選択教科
(必修教科の授業で学習した内容の定着度について個人差が大きいため)

(2)年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 補充的な選択教科の開設と，使用教材の開発</p> <p>研究の見通し（仮説） 個人差が大きくなる3年生において補充的な選択授業（年間35時間，国・社・数・理・英）を開設し，生徒の不得意な教科を前期1教科，後期1教科合計2教科選択させ，本校教師が作成した3学年分の基礎・基本の教材シート（各学年8級 合計24級）を活用して個に応じた指導を展開することで学力の向上が図れる。 生徒は，進級表をもとに自ら選択した教科の定着状況を確認しながら主体的に学習に取り組むことで学び方が身につく。 教師は，進級表や教材シートを作成する過程で指導要領における各教科の基礎・基本や評価規準を明確に掴むことができる。</p> <p>研究の内容・方法 【研究内容】 （1）教科書をもとに新教育課程における各教科の基礎・基本を洗い出し，進級表を作成 （2）5教科（国・社・数・理・英）について，第1学年から第3学年までの基礎・基本の教材シート（各学年8級合計24級・1シート20点満点・問題毎にヒントや該当内容の教科書ページを表示）を開発 「苦手教科を克服する問題集」 （3）3年選択E（年間35時間）において，生徒の不得意な教科を前期1教科，後期1教科合計2教科選択させ，教材シートを活用して個に応じた指導を実施 4月～9月 前期終了，10月より後期開始 （4）校内相互授業参観を実施し，指導法の改善に資する。 【教材作成及び実施手順】</p>
--------	---

4月 3年選択Eオリエンテーション・希望調査
第1回選択教科プロジェクト(配点・問題数・問題形式について打合せ)
2・4級分の教材作成計画・進級表作成

- 進級表例 -

数学 基礎トレーニング学習記録表

年 組 番 氏名

シート番号	1	2	3	4	5	6	7	8	20点満点
学習内容	小学校の復習1	小学校の復習2	正の数 負の数1	正の数 負の数2	1次式の 計算1	1次式の 計算2	1次方程式 1	1次方程式 2	
1 学習月日									
得点	点	点	点	点	点	点	点	点	点
年 学習月日									
得点	点	点	点	点	点	点	点	点	点
シート番号	9	10							
学習内容	問題集のまとめ	多項式の加法・減法							
2 学習月日									
得点	点	点	点	点	点	点	点	点	点
年 学習月日									
得点	点	点	点	点	点	点	点	点	点

- 開発教材例 -

実施月日

数学シート 9 問題集のまとめ

年 組 番 氏名

1 次の□にあてはまる数や式を書きなさい。(2点×3) 【数 p.7】

① a 、 b の次数は□で、係数は□である。

② $-4x + y$ の次数は□で、係数は□である。

③ 多項式 $3x^2 - 2x + 4$ は□次式である。

2 多項式 $2x^3 - 3x^2 + 4x - 5$ で、同類項をいっしょにしなさい。(2点) 【数 p.7】

5月～9月 選択D前期・・・授業1時間について2級分の教材を作成
5月 第2回選択教科プロジェクト(評価項目・評価方法について検討)
8月 第3回選択教科プロジェクト(前期授業を実施しての成果と改善事項)
10月～3月 選択D後期・・・前期開発した教材を活用しながら授業を実施
12月 選択D授業 校内相互公開授業・現職教育

- 公開授業実践内容 - 平成14年12月12日 図書室
選択D国語(3年生徒7名)国語科教員1名
活用シート(15古文・16語句)
読む力や言語事項の定着度等に大きな差がある生徒にシートを活用する段階的指導や、個別指導を実施。
授業参観後、5教科教員で学習の形態・シートを活用する指導の流れ・効果的な支援のあり方等を検討。

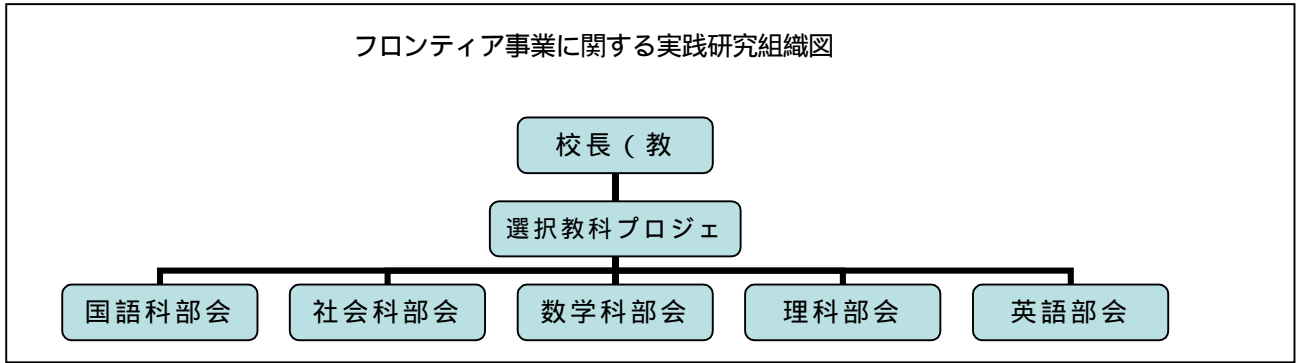


1月 第4回選択教科プロジェクト(今年度の成果と課題・次年度研究計画)
2月 成果資料及び開発教材印刷・製本 開発教材を近隣中学校26校へ配布

平成15年度
テーマ
開発教材を活用した効果的な指導法の研究
研究の見通し(仮説)
開発教材を活用し、生徒が不得意な教科の克服に向けて、生徒自らが学ぶ学習を展開する。
研究の内容・方法
プロジェクトチームで開発教材を生かした効果的な生徒主体の指導法について、研究授業を通して開発する。

平成16年度
テーマ
開発教材を活用した指導法の確立と、研究成果の公表
研究の見通し
開発教材を活用し、生徒の実態をふまえ、教科の特性を生かした指導法を確立させることにより確かな学力を身につけることができる。
研究の内容・方法
「苦手教科を克服する問題集」を活用する選択Eの時間数の増設

(3)研究推進体制



・平成15年度の研究成果及び今後の課題

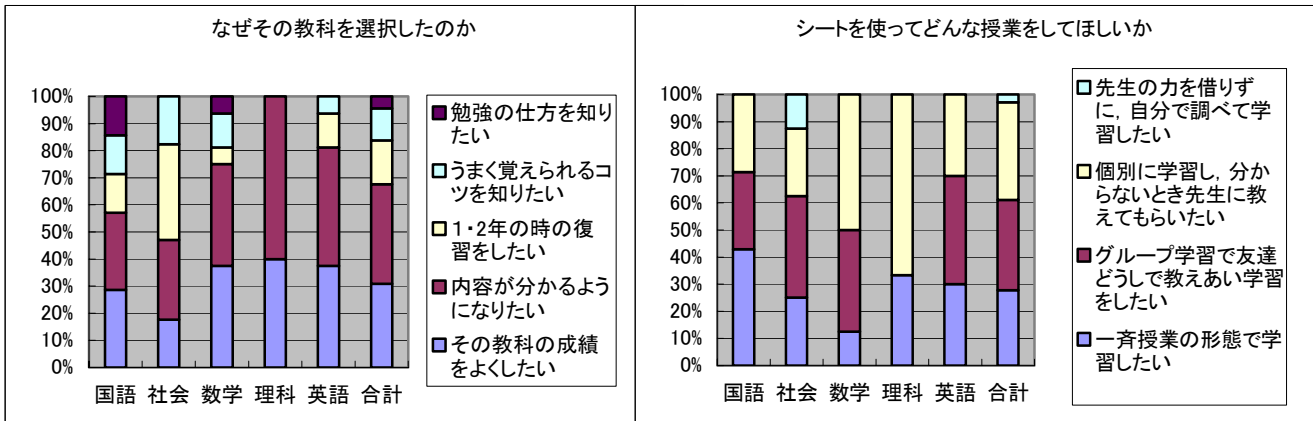
1. 研究の成果

授業実践・研究の推進

4月11日 3年選択教科Eの内容・目的・実施方法についてオリエンテーション 選択教科希望調査
第1回選択教科プロジェクト(年間計画等打ち合わせ)

5月1日 前期選択教科E授業開始(～9月末)

<昨年度中讃各校からいただいたアンケート結果を参考に教材修正>



5月15日 第1回生徒アンケート

5月19日 要請による学校訪問(学校評議員案内・本年度の取り組み説明)

5月29日 校内研究授業・討議(第2回選択教科プロジェクト)



校内研究授業内容 平成15年5月29日 社会科教室
 選択E社会科(3年生生徒7名)社会科教員1名
 活用シート: シート7(中世社会の発展と東アジア情勢), 補助シート

一斉授業で歴史の流れを復習したあと, 人間関係など生徒の実態に応じたグループを編成し, 教科書を用いながら教え学び合う学習を通して主体的に調べ学ぶ授業を提案。

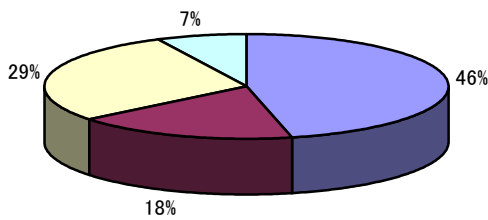
6月7日 第3回選択教科プロジェクト(生徒アンケート結果をもとに指導法・支援のあり方を検討)

6月13日 公開授業, 保護者参観・保護者アンケート

7月28日 第4回選択教科プロジェクト

9月19日 第2回前期生徒アンケート

選択Eの授業中友だちと協力したか



- ア だいたい協力できた
- イ 時々協力していた
- ウ あまり協力していない
- エ 全く協力していない

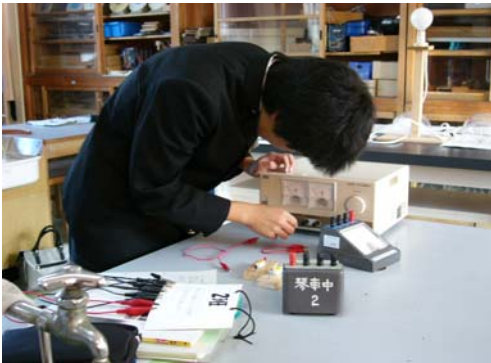
生徒アンケートから選択した教科について「内容が、以前より分かるようになった」52%、「苦手な気持ちが減った」31%、「成績が向上した」15%と一定の効果をあげたことを示している。一方で、学び合いについては、「教える方も教えられる方もよく分かる」「友だちが頑張っていると自分も頑張ろうと思う」など肯定的にとらえる意見も多く見られたものの、選択の授業中協力できたと答えた生徒は63%にとどまった。また、学力差の大きい国語・数学・英語科の教員からは学び合いの限界を指摘する声もあり、学び合いだけにこだわらない多様な学習パターンによって個人に対応することが検討された。

また、第4・5回選択教科プロジェクトでは、後期の家庭学習の充実に向けて、よりいっそう学び方指導が必要になることから、ただ問題を解くだけでなく、自分の誤答について分析する「まちがいふり返しシート」の導入を共通理解した。

9月30日 第5回選択教科プロジェクト

10月1日 後期選択教科E授業開始

10月28日 校内研究授業・討議<外部講師招聘>(第6回選択教科プロジェクト)



校内研究授業 平成15年10月28日 第1理科室
 選択E理科(3年生徒5名)理科教員1名・外部講師招聘
 活用シート:シート11(電流の流れ)

生徒アンケートから苦手意識が強い電流の単元を、教師がなるべく支援しないで生徒主体で問題解決し、まちがいふり返しシートを活用した授業を展開。特に授業の後半は、シートの学習内容を生徒が個別に実験形式で検証できるよう工夫をした。

クト)



11月25日 校内研究授業・討議(第7回選択教科プロジェクト)

校内研究授業 平成15年11月25日 学習室

選択E数学(3年生徒7名)数学教員1名

活用シート:シート21(平方根の値),22(平方根の性質),補助シート

生徒アンケートから苦手意識が強い平方根の単元を、生徒の実態に応じて3つのグループを編成し、その段階に応じて数学の学び方も含めた個別指導を行った。特に、段階別補助シートを活用することにより、きめ細かく個人差に対応できるようにした。

12月18日 校内研究授業・討議(第8回選択教科プロジェクト)



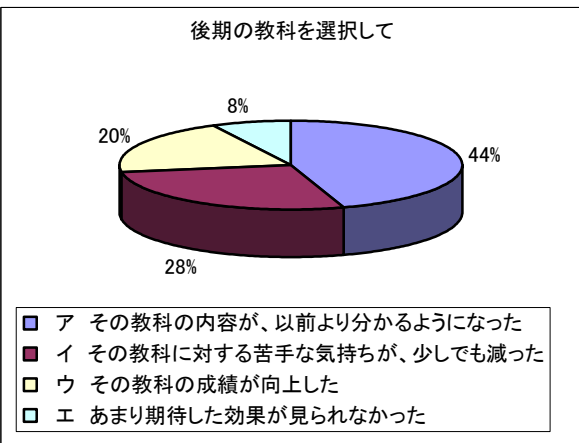
校内研究授業 平成15年12月18日 だいせんルーム

選択E英語(3年生徒5名)英語教員1名

活用シート:シート18(現在完了形・継続),19 現在完了形(完了・経験),補助シート

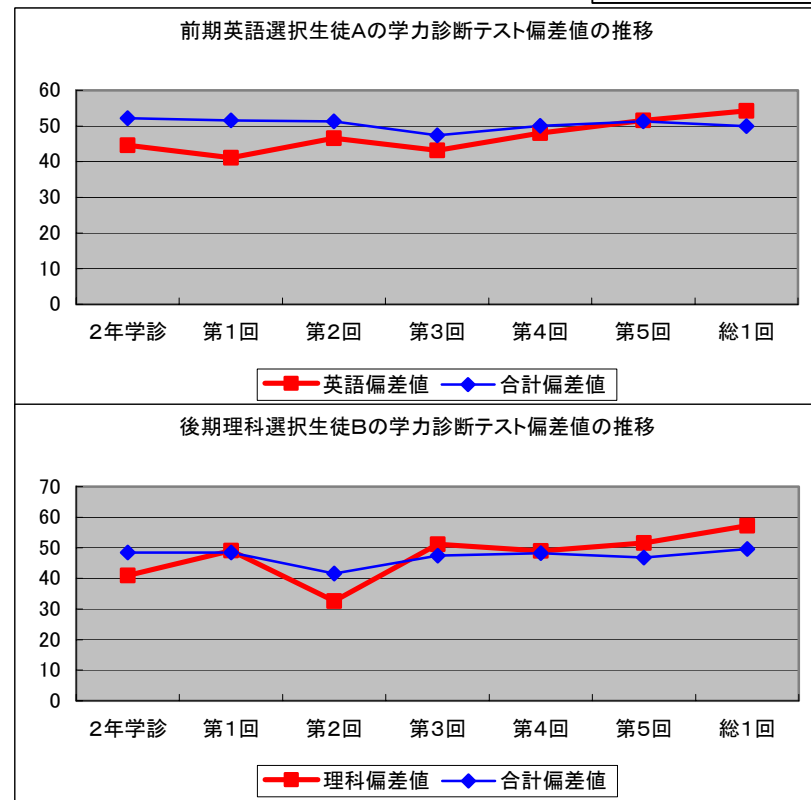
一斉授業で復習をした後、生徒の学力差に応じて、個人で取り組む発展・学び合いを主に問題を解く基礎・教師が個別指導を行う充実の3つのコースに学び方を分けて授業を展開。基礎・発展コースの生徒にはさらに補助シートを活用することにより、応用問題にも対応できるよう工夫した。

2月5日 第3回後期生徒アンケート



後期生徒アンケートから、後期も全体の92%の生徒が期待した効果があったと回答しており、20%の生徒は「その教科の成績が向上した」と答えた。下の折れ線グラフは成績が向上したと回答した生徒の学力診断テストの合計偏差値との差の推移をあらわしており、徐々に苦手意識が少なくなってきたことを表している。さらに、生徒の88%がまちがいふり返りシートの効果を認めており、「どこが分からないのかや理解していないところが分かる」31%、「苦手教科のどこを勉強すればよいか分かる」22%、「解き方や考え方が分かり、次の問題を解くのに役に立つ」20%という結果になった。一方で、家庭学習に変化があったと答えた生徒も68%にのぼっており、「自分が選択した教科の学習時間がとれるようになった・増えた」29%、「自分が選択した教科の過程学習が丁寧になれるようになった」23%など家庭学習の改善が見られた。

2月6日 第9回選択教科プロジェクト
(研究のまとめ・次年度に向けて)



本校では、学力定着を示す客観的なデータとして、特に学力診断テストの偏差値を用いた。これは、対象生徒が3年生のみであるため、同一生徒の変容をとらせる期間が1年に限定されてくること、生徒の25%（前期生徒アンケートより）が選択した教科での成績向上を望んでいること、3年生にとって学力診断テストが非常に重要な意味をもつことがその主な理由である。研究のねらいである生徒の苦手意識を客観的に把握するため、生徒が選択した教科の偏差値と合計得点の偏差値との差を苦手意識と位置づけ、その推移を示した。むろん、すべての生徒がこのような変容を遂げている訳ではないが、おおむね改善の傾向がうかがえる。週に1時間の選択教科ではあるが、これが動機となって普通の教科の授業や家庭学習への意欲化へとつながればと考える。

生徒アンケートについて、前期と後期の結果を比較すると、シート内容について後期になると入試問題など発展的な内容を望む声が高まっていることは見逃せない。「解説シートがついていないため家で復習できない」といった声もあり、さらなる改善が課題である。1時間に説くシート数についても、前期は96%の生徒が2枚でよいと回答していたが、後期になると32%の生徒が「枚数にこだわらず自分でどんどん解きたい」と回答しており、生徒の逼迫感が伝わってくるようである。また、今後の選択Eのあり方についても質問をしたところ、52%の生徒が「今まで通り、前期・後期1教科ずつ選択し、週に1時間ずつ授業を行う」のがよいと答えたが、一方で44%の生徒が「1年間を通して、同じ教科を2教科ずつ選択し、それぞれ週に1時間ずつ授業を行う」のがよいと答えており、次年度の生徒の実態や保護者の要望と合わせて、次年度は1年間を通して同じ教科を2教科ずつ選択し、それぞれ週に1時間ずつ実施する予定である。また、2年生の選択教科にも週に1時間導入して、早期から苦手教科克服に向けて意識付けを行っていきたいと考えている。

選択E 授業参観後の保護者の感想 (H15.6.13 実施) **保護者アンケート** (H16.1.8)

保護者アンケートは2回実施したが、2回とも 100%の保護者が今後も選択Eの授業を続けてほしいと回答しており、期待の高さがうかがえる。特に、「学習塾に行っていないので助かる。」「どこが得意なのかを知ることで、その部分を重点的に学習していけるので効率的である」「少人数の落ち着いた雰囲気の中で熱心に取り組んでいる」「先生が近くでいるので質問しやすいと子どもが言っている」など大変好評であった。時間数の増加を要望する声も保護者から聞かれた。

1. 今後の課題

- (1) 開発教材を用いた選択授業によって生徒に確実に基礎・基本の内容が定着しているかについて、前年度に引き続き継続的なデータを取り、生徒の変容を把握するとともに、指導に生かす。
- (2) 生徒の実態や教科の特性をふまえて開発教材を活用し、指導法を確立する。
- (3) 保護者・地域・他校へ研究成果や課題について公表する。

. 学力把握のための学校としての取組

- 1. 標準学力検査 NRT (年度当初1回) 全国基準との比較, 重点指導領域の確認, 個別指導への活用
- 2. 学習状況調査 (年1回) 県基準との比較 英・数・理各基礎・基本的内容の定着状況確認
- 3. 学習の診断 (年7回) 3年間の学習内容定着状況の確認
- 4. 校内定期テスト (年4回) 1学期中間・1学期末・2学期中間・2学期末 既習事項の定着状況確認
- 5. 校内ベーシックチェック (年10回) 国・数・英各基礎・基本的内容の定着状況確認

. フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 保護者及び地域への公開

- (1) ・第1回校内自由参観 (H15.6.9~ H15.6.13)
- ・第2回校内自由参観 (H15.10.20~ H15.10.24)
- ・3年選択E (国社数理英)の公開授業 (H15.6.13)
教員・地域・保護者対象
- (2) 本校の学力向上フロンティア事業の取組を紹介する学校便り「源流」を、町内全戸に配布 (H15.9月・H16.1月)
- (3) 学力向上フロンティア事業実施状況について説明し、助言をいただく学校評議員会を年2回実施 (H15.5.19, H15.11.27)



- 2. HP更新 (H16.1.21) 更新予定 (H16.3.5) <http://www.niji.or.jp/school/kotonamichu/>

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	1 5年度からの新規校	1 4年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4~6学級		
	7~9学級	10~12学級		
	13~15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	その他			
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	